

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者が地域の中でその人らしく生活を送れるよう、事業所独自の理念を作り上げ、その理念の下に全職員で話し合い、打ち出した“笑う・寄りそう・支えあう”というスローガンを掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時にスローガンの唱和を行い、職員一人ひとりが理念を念頭において日々のサービス提供を心掛けています。また、自主的に開催している勉強会等を通し、職員同士が意識し合いながら理念の確認と共有を図っています。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2ヶ月に一度開催している運営推進会議や、3ヶ月に一度発行しているホーム便りにてご家族や地域に対し、理念実現に向けた事業所の取り組みを伝達、報告しています。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	より良い関係作りの一環として、日頃の挨拶はもちろん、施設周辺の清掃活動、自治会会場として施設の提供等を行い、気軽に立ち寄って頂ける関係や、いざという時に助け合える関係作りに努めています。	○	近隣の店や施設の利用、地域行事への参加、散歩等の地域の方々に気軽に立ち寄って頂けるような関係作りを通して、利用者様や職員が地域の中に溶け込めるように努めたいと思います。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議には自治会からも出席を頂き、地域住民の一員として、交流の機会を図れるように努めています。また、実習生の受け入れを行い、開かれた施設を目指し、ボランティアの受け入れも施設全体で積極的に受け入れています。	○	地域とのお付き合いは散歩や地域行事への参加、保育園との交流、店に買い物に行く等の活動を通じて、“地域に存在するグループホーム”として理解を頂きながら、これからのようにふれあいの機会を持てるか検討していきたいと思っています。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居の相談、見学の対応は常時行っており、その際に介護に関する相談を受けた時はできる限りの対応を行っています。しかし、現在は地域との関わりが薄く、直接的な取り組みは行っていません。	○	今後は運営推進会議や自治会の会合の場を活用して、事業所が地域に対してどんな働きかけができるのか、どんなことが求められているのか等聴取していきたいと思っています。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を全職員が確認すると共に、運営推進会議等を通じて、利用者様、ご家族、地域の方々にも報告を行い、改善方法についてご意見を頂き、家庭的なレクリエーションの提供、寄り添いのケアに活かしています。	○	外部評価に加え、情報公表が始まることを踏まえ、改めて外部評価の意義と活かし方について職員へ説明を行いました。全職員でグループホームに求められているケアについて再確認し、利用者様に快適に過ごして頂けるケアを目指してサービス内容の改善に取り組んでいきます。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者状況、サービス状況、外部評価の取り組みについての報告を行い、情報を共有しています。取り組むべき課題については、出席者に意見を仰ぎ、頂いた意見を基に改善に向けて取り組んでいます。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政に対し、運営上の相談、直面している課題等について電話連絡にて相談、助言を仰いでいます。また、窓口にパンフレットを持参し、入退居状況等の報告を行うこともあります。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は外部、内部研修を通じ、権利擁護に関する制度の理解に努めています。また、入居時や運営推進会議で説明を行い、必要時には利用者様、ご家族、地域の方に案内、説明ができるようにパンフレット等を準備しています。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての外部研修に加え、内部研修、ミーティング等を通じ職員間で意識、共有を図ると共に防止に努めています。また、入居時や運営推進会議等で説明する機会を設け、ご家族や来訪者が報告や相談をしやすい環境作りにも力を入れています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては、利用者様やご家族に不安が生じないよう相手の立場に立ち、十分な説明を心掛け、質問や疑問がその場で解消できるような対応に努めています。また、事業所においてできること、できないことを明確に説明し納得、理解を頂いたうえで契約を結んでいます。		

福岡県 GHシティ・ホーム神松寺地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者様から意見を聞きだせるよう、日々話しやすい雰囲気作りを心掛けています。また、運営推進会議を茶話会形式で実施する等、利用者様、ご家族、地域の方が共に話し合える開かれた意見交換の場を設ける等、環境作りにも取り組んでいます。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時には、日々の生活の様子や健康状態等の報告、また、3ヶ月に一度発行しているホーム便りを利用して、行事の様子や職員の異動等の掲載を行っています。現在、利用者様から金銭は預かっておらず、必要物品はご家族に持参頂くか、了解を頂いた上で事業所が立て替えて購入しています。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には管理者を始めとする職員が意見の傾聴に努め、話しやすい関係作りを心掛けています。苦情の受け付けについては、入居時、運営推進会議等でその対応について説明を行っています。また事業所内に関連するポスターを掲示しています。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署ミーティング、運営推進会議への出席、日報の確認、行事計画、ケアの方針の相談等、日常生活の状況把握に努めると共に、困難ケース、設備不良、職員の入退職に伴う勤務体制の確立等で、職員の意見を聴き、利用者様へのサービスに支障が出ないように配慮しています。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日頃より職員の健康管理には留意しており、職員の急病時には早めの勤務調整にて速やかな対応を取っています。また、外出や行事、個別ケアに対応できるように勤務を調整して、日中の職員を増員するよう努め、限られた職員数の中で工夫をしています。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は定年退職を含む職員の入退職、欠員補充で派遣社員登用等馴染みの関係が大切なグループホームにおいて、利用者様、ご家族の皆様にはご迷惑をお掛けしました。利用者様への影響が最小限となるよう引継ぎ、情報交換を密に行う等配慮しました。	○	職員構成において正職員の比率を高め（現在正職員7名、常勤パート1名）、利用者様と馴染みの関係を築く職員体制を整えました。今後も利用者様と職員の寄り添い関係を大切に異動、退職時の対応に配慮していきます。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	新規職員の採用において、性別、年齢等による要件はありません。「配置・昇進」「教育・訓練」「定年・退職」等についても就業規則等の定めに従い、差別なく公平な機会を与えています。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加とその共有を図る目的の内部研修、資料の回覧等で人権教育、啓発を行い、偏見や差別、プライバシーの侵害がないように取り組んでいます。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験と職種、役職に応じた介護知識、技術の向上が図られるよう外部研修には積極的に参加する方針を採っています。また、外部研修に参加した職員が職場内研修で発表を行うことで情報共有を図っています。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症関連の外部研修に参加する機会を増やし、他同業者との交流を図っていますが、勉強会や相互訪問等の機会を持つまでには至っていません。	○	認知症ケアに関する研修、勉強会や他施設の見学、研修を通して自施設の状況を客観的に評価し、サービス向上に結びつける取り組みを行っていく予定です。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内にカウンセリング室を設置し、カウンセラーが不定期ながら、訪問により職員の意見、悩み等を傾聴しています。また、休憩の際はゆっくりと静養ができるよう専用の休憩室が整備されています。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が認知症ケアに対する思いや向上意欲を今後も保っていけるよう外部研修への積極参加、定期情報誌の購入を行うと共に自主的にやっている勉強会を応援しています。	○	今後も情報、資料提供や研修体系、勤務体制等、設備を含む職場環境を整え、職員が安心してやりがいを持って日々のケアにあたるよう配慮していきたいと思っております。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人様と直接お会いし、本人様の思いや不安を受け止め、置かれている状況を把握することで、信頼関係を築けるように努めています。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談を行い、ご家族のニーズや思いを把握し、解決策やその方らしい暮らしを支える為の方針を共に検討しています。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族だけでなく、在宅のケアマネージャーや現在利用している事業所にも出向き、話を伺い、その方の状況を理解することに努めるとともに助言を行っています。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様の気持ちに寄り添いながら、ご家族との連絡、相談を密に行い、徐々に新しい生活環境に馴染んで頂けるようなサービス提供を心掛けています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様も職員も各々の個性を前面に出し、お互いを思いやり、尊重しながら日々生活しています。また、今年度は“笑う・寄りそう・支えあう”というスローガンを掲げ、利用者様とのより良い関係作りにも努めています。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人様の生活を支援する者同士、それぞれが持つ情報を共有しながら、本人様のより良い生活を目指し、日々その関係作りに努めています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々のご家族の事情や状況を把握できるように、ご家族との連絡は密に行っています。運営推進会議の開催により、遠方のご家族との交流も増え、主治医を交えたカファレスの場を設ける等、より良い関係作りに努めています。ご家族には、3ヶ月に1回ホーム便りを送付し、日常生活の様子を報告しています。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られた時には、居室やリビングへお通しし、時々職員が間に入り、和やかな場になるように支援しています。馴染みの場所への外出の際はご家族と十分検討をしながら支援しています。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	職員は利用者様同士の関係を把握するよう心掛けており、一人で過ごされたい方は落ち着く場所にお連れし、孤立しない程度に声掛けや見守りを行っています。また、季節行事の際には全利用者様が参加し、仲が深まるよう支援しています。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方のご家族の訪問や、ご親戚の方の入居相談がある等、必要な時に頼って頂ける関係作りを行っています。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中から本人様の希望や思いを聞き、言葉で訴えることができない方にも、その方のこれまでの暮らしぶりや、ご家族や主治医からの意見を参考にして、その方らしい生活が送れるように努めています。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様やご家族から生活歴を詳しく伺っています。また、入居後も面会時に情報の収集を行い、本人様との会話に活かす等努めています。詳しい情報の整理にはセンター方式を活用しています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	排泄、水分、食事量等を細かく観察、記録し、職員間で情報を共有できるように努めています。また、観察した様子やエピソード等も記録し、ケアプランの立案にも反映させています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人様、ご家族、主治医、職員等の意向や意見を基に課題を明確にしてケアプランを作成しています。作成後は説明を行い、内容をご理解頂いています。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間や状態変化に伴いケア内容の見直しを行い、計画を作成しています。また、毎月のミーティングでは毎回全利用者様の状態について話し合い、対応法を検討しています。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、排泄・水分・食事量等の記録や職員間での連絡ノートを活用し、情報の共有が図れるように記録を行っています。また、サービスの実施が統一できるよう職員間で日々情報交換しながら、介護計画の見直しにも繋げています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人様とご家族が外出や病院受診される際は、必要に応じて職員が同行する等、本人様やご家族の負担が軽減されるように努めています。また、ご家族が意見や要望を出しやすい、よりよい関係作りを心掛けています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	施設全体のボランティアの受け入れがほとんどで、事業所としてのボランティアの受け入れは少ない状況にあります。	○	事業所としてボランティアの受け入れが少ない為、ボランティアセンターや各学校等に働きかけ、地域の方々とも交流を深めていきたいと思っております。

福岡県 GHシティ・ホーム神松寺地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問医療、訪問歯科、訪問マッサージ等、介護保険サービス以外で本人様が必要なサービスを受けられるように支援しています。その為に、関係者への相談や連絡を行っています。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	毎回運営推進会議には地域包括支援センターより職員の方へ出席を頂き、懸案事項について意見を求め、協働してケアに取り組めるよう努めています。運営推進会議開催時、利用者様にも声を掛けて参加して頂いています。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様とご家族の希望されるかかりつけ医との連携に努めています。また、入居前に利用されていた医療機関等からも情報提供を頂き、事業所を含めた各機関とも連携が取れるように努めています。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではありませんが、高齢者の在宅医療に熱心で、全利用者様の主治医がご家族や職員の相談にのって下さり、ホームドクター的助言を頂くこともあります。必要に応じて主治医に相談し、専門医療機関に紹介状を書いて頂けるように体制を作っています。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設するデイサービス所属の看護師が利用者の日常の健康状態を把握し、24時間いつでも職員が相談できる体制をとっています。夜間、日曜日は看護師が専用の携帯電話を携帯しています。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報提供を細かく行い、必要があればご家族、担当医師、ソーシャルワーカーと面談の機会を持ち、利用者様にとって最善の方針を話し合っています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化、看取りに関する指針」に沿い、できるだけ早い段階でご家族、主治医、職員で話し合いの場を持ち、利用者様とご家族の意向を確認しながら、職員全員で方針を共有できるようにしています。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者様の変化に適切に対応し、職員、主治医、利用しているサービス機関とできること、困難なこと、不安なことを相談しながら体制作りに取り組んでいます。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	暮らしやケアの継続性に配慮し、移り住む先へは細やかな情報提供を行い、退居後も必要に応じて連携できるように努めています。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修の実施により、職員の意識向上に努めています。月1回のミーティングでは、利用者様への言葉掛けや対応等についても検討しています。知り得た個人情報は他の利用者様やご家族に漏れないよう職員間で留意しています。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴、食事、排泄等、その都度声を掛け、断られた時は時間をおいて対応する、職員を代えて声を掛ける等、本人様の希望を尊重するように努めています。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、利用者様の状態に合わせながら、本人様の希望する「一日」を支援しています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 美容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日の更衣の際には職員が勧める服であっても、利用者様に選択、決定して頂くことで本人様の好みに沿うものを提供しています。希望があれば、本人様の希望する美容室にご家族と協力してお連れする事もできます。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは外部業者に委託していますが、盛り付けや片付け等は利用者様の状態に応じて一緒に行っています。また、職員も利用者様と同じものを食べながら、楽しい食卓を囲めるように努めています。		
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様の個々の嗜好物を把握するよう努めており、菓子パン、菓子、漬物、栄養ドリンク等、好きな物を利用者様と職員と一緒に買い物に行く機会も設けています。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援してい る	毎日の水分量、排泄状況を記録することで、排泄パターンを把握し、個々の間隔でトイレへ誘導しています。また、トイレサインを見逃さぬよう観察し、日中はできるだけトイレで排泄をして頂けるよう心掛けています。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの 希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援してい る	入浴日は曜日などで固定はせず、利用者様の希望や状態、入浴の間隔により決めています。拒否が見られる利用者様には時間をおいて声を掛けたり、日を改める等工夫しています。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中利用者様の希望、状態に応じて臥床時間を設けています。夜間眠れない利用者様には温かい飲み物を提供したり、一緒にお話しをする等して、安心して過ごして頂けるよう支援しています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様のそれぞれの状態、得意分野等を把握し、洗濯物干しやお茶の準備、ゴミ捨て等の家事への参加や、歌、踊りなどの楽しみごと等、気晴らしの支援も行っています。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される利用者様にはご家族の了承を得て、少額所持して頂いています。また、買い物に出掛け、ご本人が支払う機会が持てるよう支援しています。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や利用者様の体調に合わせて事業所内の庭に出たり、散歩、買い物に出掛ける等の支援を行っています。外出行事企画も行ってはいますが、気軽に外出できるような体制が不十分な面もあります。	○	気候が良い時期には、ご家族の協力も頂きながら、職員の勤務を調整して外出行事の企画も進めていきたいと思ひます。また、気軽に外出ができるような体制作りも進めていきたいと思ひます。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様やご家族から希望があれば、できる範囲で職員側も協力しています。現在は特にそれを希望される方がおられません。	○	利用者様やご家族に希望する外出先や馴染みの場所を尋ねる等、今後は積極的な外出支援を行うよう努めていきます。
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望があった時は事務所内の電話を使用して頂くことができます。本人様やご家族の意向を尊重しながら、その方に合った支援を行っています。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間は特に設けておらず、宿泊を希望される方には別室を準備しています、また、面会時には一緒にお茶を飲みながらひと時を過ごして頂く等、気軽に訪問できる雰囲気作りに努めています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に身体拘束について話し合ったり、研修報告書などの資料を参考に理解を深めています。研修に参加できなかった職員には内部研修を通じて内容を報告しています。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠している事のデメリットは認識していますが、施設が坂道や交通量の多い道路に面しており、見守りに十分配慮しながらも、万一の事故を考慮すると鍵をかけないケアは現実的ではないと考えます。利用者様が「外に出たい」と言われる時に、できるだけ(職員同伴で)外出できる体制作りを行っています。	○	今後も利用者様の状態や状況に合わせて、運営推進会議の場等で「鍵をかけないケア」について検討していきたいと思います。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様の状態や状況により、稀に一人で屋外に出られることがあります。すぐに職員が対応しています。昼夜とも、職員は見守りがしやすい場所で所在の確認を行い、事故の防止に努めています。	○	屋外に通じる扉付近に警報ブザーを設置し、より安全確認しやすい環境を整えたいと思います。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状況に応じて、注意の必要な物品を一時的に片付けることはありますが、全体の状況を見ながら元の場所に戻しています。また、発生しうる事故を想定しながら、備品の配置も検討しています。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様の状況に応じて、想定される事故(状態変化、転倒、誤嚥等)を検討し、ケアプランに取り入れたり、職員間の連絡帳やひやりハットノート、毎日の申し送りを通して、全職員が事故を防止できるように努めています。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルは作成しており、救急法の講習や研修も受講していますが、職員全員が定期的に受講できていない為、職員の技術にはばらつきが見られます。	○	救急法の講習や研修は定期的に受講し、最新の救急方法を身に付けて、今後の対応に活かしたいと思います。

福岡県 GHシティ・ホーム神松寺地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、消防署からも助言を受け、安全管理や訓練に活かしています。また、運営推進会議にて、出席者に施設の備えを明示しました。施設では約2日分の食糧を備蓄しています。	○	運営推進会議や自治会会合などの機会を利用し、災害発生時には地域から協力が得られるような働きかけを続けていきたいと思えます。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ひやりハットや事故報告書を活用し、ミーティング時に対応策を話し合っています。転倒等が予測される方には、そのリスクについてご家族に説明し、事故後に状態観察が必要な場合は速やかに状況を報告しています。また、ケアプランの見直し時に、予測するリスクを説明、理解を得ています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異常の兆候に気付いたら、個人記録や申し送りによって職員全員に伝え、様子観察を密に行っています。必要があれば主治医や看護師らに報告、相談し、早期対応を心掛けています。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬をなぜ、どのくらい、どの程度の期間服用するのかを全職員が把握するように努めています。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それを維持するように努めています。繊維ゼリーや乳製品を取り入れ、自然排便を促しています。便秘が続く方にはなるべくご本人に負担がかからないように医師や看護師らと相談して対応をしています。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。可能な方にはご自分で歯ブラシを持って頂く等、残存能力の維持も心掛けています。また、歯ブラシは熱湯消毒し、月1回交換しています。必要な方は定期的に歯科往診を受けられています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の記録を行っています。食事摂取量が少ない方には、状況に応じて代替食等で補えるようにしています。献立は外部委託の栄養士が作成しており、月に1回の食事サービス運営推進会議にて嗜好や調理法の提案をしています。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、閲覧しやすい場所に保管しています。また、感染症予防の為、職員は年間を通じて入社前の体調管理のチェックや手指の消毒等で感染を未然に防ぐよう努めています。面会者にも手洗い、手指消毒の協力をお願いし、実践しています。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限が切れた食材は処分しています。現在、食事の調理は外部委託の業者に依頼しており、食材からの調理は行っていません。配膳時に使用した器具や食器は洗剤で十分洗浄し、必要時には消毒をして衛生管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先を季節の植物を植え、手作りの看板を設置して、家庭的で明るい雰囲気作りを行っています。	○	利用者様と共に玄関先の花壇作りや日々の植物の世話をする等、活動の幅を少しずつ広げていきたいと思っております。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者様が生けた花々を飾り、明るい雰囲気作りをし、外から射す光にはカーテンやよしずを活用し調整を行っています。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内には複数のベンチを設置し、居室以外でもプライベートの時間や少人数でくつろぐスペースを確保できるよう配慮しています。一人用のテーブルを活用して落ち着いて食事が摂れるような支援も行っていきます。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には私物(家具、雑貨、写真等)を配し、利用者様が安心して過ごせる空間を作りを行っています。また、リビングに面した居室には暖簾を利用し、プライバシーの保護に配慮しています。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、共用部では換気扇や空調設備を利用して快適に過ごして頂けるよう心掛けています。また、気候や利用者様の体調に合わせて換気を行っています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体機能に応じ、生活全般において自立できるよう環境の整備に努めています。また、適宜福祉用具を利用しながら、利用者様の持つ「強さ」を活かせるように支援しています。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を未然に防げるように生活状況を細かに観察し、日々の記録を活用しながら、一人ひとりの状態に合わせた環境整備を行っています。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	リビングから庭を一望でき、庭への出入りは自由になっています。庭では小さな畑を作り、日常的な活動として洗濯物干しや日光浴、足浴を行っています。ガラス戸を華やかに飾りつけたり、よしずを用いて季節感を感じられるように工夫しています。	○	庭先へ出る方がいつも同じ方になってしまい、全利用者様に屋外へ出て頂くことが難しい状況にあります。時間帯や声掛けなどを工夫して、少しの時間でも屋外へ出て頂けるよう努めていきます。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族と	<input type="checkbox"/>	②家族の2/3くらいと
			<input checked="" type="checkbox"/>	③家族の1/3くらいと	<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない
			<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように	<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
			<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに	<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている	<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
			<input checked="" type="checkbox"/>	③あまり増えていない	<input type="checkbox"/>	④全くいない
			<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が	<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
			<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input checked="" type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
			<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が	<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
			<input checked="" type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が	<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
			<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
			<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input checked="" type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が	<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
			<input checked="" type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない
			<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が	<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
			<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が	<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
			<input checked="" type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない
			<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が	<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
			<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 季節ごとの行事や新しく迎えた利用者様の歓迎会等、利用者様と職員と一緒に楽しめる企画を定期的実施しています。
- 感染症予防や清掃活動等、衛生面での取り組みを強化して実施しています。
- 正職員の割合を増やす、業務の効率化を図る、職員間のコミュニケーションを密に行う(職員間での声掛け等)等、どの職員もやりがいを持って業務に臨めるような体制作りを行っています。
- 職員の能力向上のため、(自己啓発活動も含めた)研修や勉強会を積極的に受講しています。